

概要

- 土佐山地区を中心とした高知市北部の中山間地域では、複合経営を行う農業の形態が多く、ユズを基幹品目として四方竹やハウスミョウガ（以下、ミョウガ）等を栽培しており、収量・品質の安定化に向けた技術力強化（ユズ・ミョウガ）や作業負荷の軽減に向けたドローンの活用（ユズ）、ユズの無農薬栽培に向けた検討、担い手の確保・育成のため流動化可能な園地情報の整理（ユズ・四方竹）、集落営農組織の活動促進、新規有望品目の探索に対し支援した。
- その結果、**ユズ加工上位等級以上の出荷量増加、ミョウガ栽培指針案の作成、ユズドローン施肥の技術実証、ユズでの流動化の可能性のある園地の把握、四方竹での営農意向調査、集落営農組織のビジョンを策定、新規有望品目候補が決定した。**

具体的な成果

1 主要品目の安定生産

- ユズ加工A等級と冬至無印等級を合わせて、**約43t（令和3～5年平均38t）**の出荷量を確保した。
- ミョウガ栽培指針について、JA担当者と共に**共有・検討を行い、土佐山地域版の案を作成した。**
- ユズでのドローン施肥の必要性がドローン防除作業受託会社に理解され、次年度から**施肥のメニューが追加**された。

2 生産基盤の維持

- ユズでは**流動化の可能性のある12園地の情報を調査**し、四方竹では**営農意向調査が終了**した。
- 集落営農組織のビジョン案作成を支援し、組合員間で**今後の活動について共通認識を深めた。**
- 新規有望品目について、次年度以降調査を実施する**2品目を決定**した。



ドローン施肥試験



組合員によるワークショップ

普及指導員の活動

令和6年度

- 技術力の向上のため、**現地検討会**や、**技術情報誌「ユズだより」の全戸配布**での情報提供。
- ミョウガでの部会収量目標を共有。指針作成のため**栽培管理状況を調査**。
- ユズでの**ドローン防除に関する情報提供**や**施肥に関する技術を実証**。
- ユズの**無農薬栽培に向けた出荷体制について検討**。
- ユズで今後の営農意向調査から、**規模縮小予定農家の園地調査**。四方竹で**営農意向調査**を実施。
- 集落営農組織のビジョン作成のため、ワークショップによる**アイデア出し**を行う**座談会を開催**。
- 新規就農者等が選択可能な**新規有望品目について調査**。



ユズ日焼け対策勉強会



ミョウガ勉強会



四方竹営農意向調査

普及指導員だからできたこと

- 生産部会や販売先企業も含めた**土佐山ユズチーム会**や**土佐山連絡会**で関係機関を結びつけ、課題・情報を共有、意見交換を行う**場づくり**をしたことで、**各機関で連携の取れた活動を進めることができた。**

高知県

土佐山地区を中心とした園芸産地の維持・発展

活動期間：令和6年度～継続中

1. 取組の背景

土佐山地区を中心とした高知市北部の中山間地域では、複合経営を行う農業の形態が多く、ユズを基幹品目として四方竹やハウスミョウガ（以下、ミョウガ）等を栽培している。

そこで、収量・品質の安定化に向けた技術力強化（ユズ・ミョウガ）や作業負荷の軽減に向けたユズでのドローン活用、ユズの無農薬栽培に向けた検討、流動化可能な園地情報の整理（ユズ・四方竹）、集落営農組織の活動促進、新規有望品目の探索を支援した。

2. 活動内容（詳細）

（1）主要品目の安定生産

ア ユズでは技術力の向上のための栽培管理について、現地検討会や勉強会で情報提供した。また、毎月、技術情報誌「ユズだより」の全戸配布等により、時期ごとの栽培管理のポイントや産地の活動について情報提供した。

イ ミョウガでは、部会収量目標を共有した。栽培指針作成のため、栽培管理状況を調査した。また、生産性向上に向けて、高温対策に関する実証ほを設置した。

ウ ユズでのドローン防除の効果や運用に関する情報提供、ドローンによる施肥技術をドローン防除受託会社と実証した。

エ ユズの無農薬栽培に向けた出荷体制を検討した。

（2）生産基盤の維持

ア ユズでは営農意向調査結果から、規模縮小予定農家の園地流動化の可能性を調査した。四方竹では営農意向調査を実施した。

イ 都積営農組合のビジョン作成のため、ワークショップによるアイデア出しを行う座談会を実施した。また、組合員に対し、栽培や経営に関する勉強会を開催した。

ウ 新規就農者等が選択可能な新規有望品目について調査した。



ユズ日焼け対策勉強会



ミョウガ勉強会



四方竹営農意向調査

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 主要品目の安定生産

- ア ユズにおいて、「加工A等級」と裏年時に冬至規格が不足する際に設定される冬至〇Aの下位出荷規格「冬至無印」を合わせて、約43t（R3～5平均38t）の出荷量を確保した。
- イ ミョウガの栽培指針について、JA担当者と共有・検討を行い、土佐山地域版としての案を作成した。
- ウ ユズでのドローン施肥の必要性が受託会社に理解され、次年度から施肥のメニューが追加された。
- エ ユズの無農薬栽培について、「近隣農家に迷惑がかかる」、「樹が弱る」という意見も多く、産地として積極的に無農薬栽培に取り組むことは、青果出荷者もいる現状では難しいことがわかった。

(2) 生産基盤の維持

- ア ユズでは、流動化の可能性のある土佐山・日ノ浦地区の12園地の情報を調査した。四方竹では営農意向調査が終了した。
- イ 集落営農組織のビジョン作成を支援し、組合員間で今後の活動について共通認識を深めた。
- ウ 新規有望品目について、次年度以降に調査を実施する2品目を決定した。



ドローン施肥試験



組合員によるワークショップ

4. 農家等からの評価・コメント（高知市土佐山柚子生産組合Y氏）

- ・ 情報発信により上位等級出荷に向けた部会の勉強会への参加者が増えてきて、よい流れができつつある。
- ・ 傾斜等厳しい条件のほ場も多い中、面積や生産者数の維持のため、基盤整備や近隣地域の平坦部への進出に向けた協力をお願いしたい。

5. 普及指導員のコメント

（中央西農業振興センター高知農業改良普及所・普及指導員・K氏）

- ・ 生産部会や販売先企業も含めた土佐山ユズチーム会や土佐山連絡会で関係機関を結びつけ、課題・情報を共有、意見交換を行う場づくりをしたことで、各機関で連携の取れた活動を進めることができたと感じている。引き続き連携を維持しながら、課題発見と解決に努めたい。

6. 現状・今後の展開等

今後は、以下の取組を展開予定している。

- ア ユズでは、生産量増加と品質向上に向け、病害等への防除対策の周知や新植、改植に向けた支援。
- イ ミョウガでは夏期の高温対策も含めた栽培の検討。
- ウ ユズでのドローン活用に対する情報提供やドローン活用試験。
- エ ユズの有機JAS対応農薬を用いた実証。
- オ 新規就農希望者（ユズ）に対する栽培、経営支援。
- カ 都積営農組合のビジョンの実施。
- キ 新規有望品目について試験販売、評価の実施。